

## ならまちから全国へ新たな観光のかたちを発信する

株式会社地域活性局 奈良県奈良市

世界遺産・元興寺<sup>がんこうじ</sup>の旧境内を中心とした通称「ならまち」と呼ばれる奈良市の旧市街地は、寺社や古い町屋を中心とした風情ある町並みで知られ、まちあるきを楽しむ観光客で賑わいを見せている。

そのならまちで「観光振興を柱とした地域経済の活性化」をテーマに様々な事業を展開し活躍しているのが、『株式会社地域活性局』社長の藤丸<sup>ふじまる</sup>ただあき<sup>ただあき</sup>さん（27才）だ。



奈良市中院町にある「奈良町情報館」の外観（左）  
元東大寺長老・故筒井寛秀師の揮毫による看板（右）

藤丸さんは福岡県太宰府市の出身で、実家は太宰府天満宮のそばで古くから商う和菓子屋。家業の取引先などの関係で奈良には縁があり、歴史好きだったこともあって奈良大学に進学した。

親戚に事業をやっている人が多く、子供のころから起業に興味があった藤丸さんは、在学中の2004年に学生の同志を募り、山間地と消費地（観光地）を結び地域の活性化を行うことを目的とした地域貢献団体「地域活性局」を立ち上げた。

早速「学生たちで村おこしの手伝いをしたい」と奈良県山間地の各町村に連絡を取ったが、実績のない学生グループの提案はなかなか相手にされない。そんな中、吉野郡川上村の元助役との偶然の出会いがあり、同村の農作物のならまちでの販売が実現できたという。

当初は、生産農家などから「卒業したらやめてしまう一過性イベントのような活動ではないか」との疑問の声もあったが、藤丸氏は卒業後もこの事業を続けると約束して粘り強く活動を続け、ならまちでの朝市開催を定期化。こうした取り組みを持続可能なビジネスの形に発展させるため、2007年3月に「株式会社地域活性局」として法人化した。

同年7月には、観光案内拠点と特産品販売所を兼ねた「奈良町情報館」をならまち中心部に開設。

これまでの来館者数は、2010年末時点でのべ23万人以上にのぼっている。

現在同社では、ならまち散策マップの作成・配布や県内特産品の紹介・販売などを行なう『観光地域振興事業』と、川上村の地場産大和野菜などをならまちで販売する『山間地域振興事業』の2つの大きな柱を中心に、奈良のオフシーズンや夜を盛り上げるイベントの企画など、地域を活性化するための様々な仕掛けづくりを展開している。

「観光は地域産業とともに歩むべきで、観光を柱として地域産業全体のすそ野を広げていく」のが藤丸さんの信念。消費地と生産地が連携し相乗効果で両者が潤う仕組みをつねに意識しているという。



県内特産品などが並ぶ「奈良町情報館」の内部（左）  
壁面にはならまちのいろんな店の案内が掲げられている（右）

「地域の氏神さんでの伝統行事や風習などが生活の中に息づいている古い町そのものの雰囲気、外から来た自分にはとても魅力的だった」と語る藤丸さん。「全国の新興住宅地や地域のコミュニティが失われつつある都会の人々に、ならまちの昔から変わらない懐かしい生活風景が新鮮味をもって受け止められている」とも分析する。

そして奈良県内には、ならまちと同じように古くからの生活文化を残す伝統ある地域が数多く存在しており、そうした生活文化を体感してもらう“まちあるき型”の観光への展開が、今後の奈良観光のキーになると藤丸さんは考えている。

奈良の潜在的な魅力を掘り起こし、ならまちから全国へ新たな観光のかたちを発信しようとする藤丸さんの意欲的な取り組みに、今後も注目していきたい。（吉村 謙一）

株式会社 地域活性局

〒630-8392 奈良県奈良市中院町 21

TEL・FAX：0742-26-8610